

神奈川山梨教会連合会たより

# かりん

## 信心の喜び

生麦教会 高橋正一

人それぞれに、色々な「喜び」を持っていると思います。楽しかった事、嬉しかった事、結婚した事、子供が生まれたこと、試験に合格した事、数限りない喜びがあります。

「信心の中での喜び」も同じような喜びや、信心することの喜び、朝、目が覚めた時の喜び、お届けが叶った時の喜び、良いお話を聞いた時の喜び、と数知れぬ喜びがあります。

ただ、それは、自分の喜びですね、私も自分の喜びを感じておりました。しかし、ある時、あることから、とんでもない喜びに出会えました。それは、人の為に尽くし、その人と家族が大変喜んでる姿を見て、自分がとんでもない喜びを感じたのです。自分の出来事の喜びはいかに小さいことかを知りました。

その中の一つの出来事です。私は昭和二十八年の六月に大阪から横浜市立潮田中学に転入いたしました。新垣という国語の先

生が担任でした。転入してきた私を何時も気遣ってくださいました。二年生の時は国語の佐々木スミ子先生が、担任でもないのにしょっちゅう気遣ってくれました(新垣先生が頼んだそうです)。そして、昭和三十年四月、私が中学三年のホームルームの時間に佐々木先生の教室に呼ばれました。教室に行く時、先生が「堂野」という生徒を呼んで、みんなの前で堂野君に、「この高橋君に友達になってもらいなさい」と言い、私に「高橋君、堂野君の友達になってね」と頼まれました。

堂野君は、靴屋の子どもで、両親とおばあちゃんとの四人世帯で、おとなしくて、人見知りで、シャイで、口もきけないタイプで、今で言う、いじめられタイプの生徒でした。それを見越しての、先生の気遣いだと感じました。それからは、しょっちゅう一緒に行動していました。金魚の糞とまで言われていました。彼の両親、祖母には大変喜んでいただきました。

その彼が、ある夕方四時過ぎごろ家まで訪ねてきました。母親から靴を仕入れるお金か、食事代か忘れましたが、頼まれたので四百円貸して欲しいと言われ、私は母にお願いして貸しました。彼は喜んで帰りました。後日、堂野君の家に行くと、両親、おばあちゃん共にとっても喜んでくださり、お礼を言われました。その時に、私は今までにない、とんでもない喜びを感じました。

同時に、本当の喜びはこれだと思いました。それから、人に尽くし、その人が喜ぶ姿を見て自分の喜びを感じようという心がけておられます。その事は神様が最もお喜びになっておられるのだと思います。

私が、楽しい、嬉しい、大声ではしゃぎたい時でも、相手が悲しんでいれば、私も同じように悲しんであげよう。相手が楽しく、嬉しく、大声ではしゃいでいる時には、私がどんなに、悲しい時でも、相手と一緒に、喜び、楽しんで、大はしゃぎするように致しております。そして、そのことが基になり、出会う人に、元氣、明るさ、楽しさ、それと幸せを与えるように、また、一人でも多くの人に「ありがとう」と言い、一人でも多くの人から「ありがとう」と言ってもらえるように努力しております。

それもこれも根底には、金光教の信徒であり、先代生麦教会長の可乃先生のお言葉「マサカズさん、貴方はいつも、金光さまと櫻井浅次郎先生に願われておりますよ」とのお言葉があったからだと思います。また、現在は、私が狭心症、大動脈解離、リュウマチ性多発筋痛症、妻が、レビユウ小体型認知症、突発性血小板減少性紫斑病(国の難病に認定)という疾患を持つておりますが、その中で信心の稽古をしながら、日々夫婦で楽しく、神様に感謝し、喜びに浸りながら、過ごさせて頂いております。金光さま、ありがとうございます。

## 神奈川山梨布教130年記念 「ご霊地集会」が開かれました

神奈川山梨布教130年のメインイベントとも言える「ご霊地集会」が、10月1日と2日の二日にわたり、ご霊地金光で行われました。初日は修徳殿でのメイン集会、二日目はご霊地ツアーが行われました。いまだコロナの感染状況は静まっています

ませんでしたが、願いを込め感染対策を施して、82名がそれぞれの教会ごとに新幹線、飛行機、貸し切りバスで霊地に参集し、集会に参加しました。初日の修徳殿でのメイン集会には80名、二日目のご霊地ツアーには54名が参加しました。

メイン集会は午後2時30分に、伊藤かおるさん(鎌倉教会)の司会で開会。

主催者を代表して山田信二連合会長が「130年信心を伝えてきた原動力は喜びです。ご霊地は、信心の喜びの原点であり源泉です。このご霊地で、130年のお礼を申し上げ、しっかり私たちの信心の喜びをチャージして、またそれぞれの場で、御用にあり、喜びを表して頂ければと思っています」とあいさつ。

続いて、福田光一先生(神奈川教会)の先唱で、「神徳賛詞」「天地書附奉体」「神奈

川山梨布教祈願詞」を奉唱し、お礼のご祈念を捧げました。

そして、横山光雄先生(丸子教会)が講師を紹介し、記念講演に移りました。

講師の金光英子先生は、金光教本部在籍教師(1974年補命)で前金光図書館長であり、教内外でご活躍です。講題は「同い年(おないどし)を使え」二代金光様のご信心」でした。

英子先生は、二代金光様(金光四神様)のご信心を家庭・家族の視点でとらえてお話しくださいました。二代金光様は、教祖様が家族のあり方を教えられた「申し渡し」の覚の内容をしっかりと守り通され、それは金光様の子孫の方たちにも受け継がれているとのことでした。英子先生はその内容を「よく勉強する」「金儲けに走らない」「結婚は神様にお任せする」「不便不自由儉約が人を育てる」「人と比べない」というように紹介してくださいました。また、四神様の信心の実践として、「三つの大切なこと」を紹介されました。それは「できることは何なりと喜んでさせて頂く」「できぬことはお詫び申す」「できたことにお礼を申す」です。英子先生の99歳のお母様はご苦労の多かった人生でしたが、この三つのことを実践して生きてこられ、喜び上手で今も元気に生活されているお話など、参聴者も学ぶ

だけだけでなく元気を頂くお話でした。このお話の後、大塚東子さん(武蔵小杉

教会)の進行で、熱心な質疑応答が行われました。

閉会行事では、山口和賀雄信徒部長が、「金光英子先生のお話」ともわかり

やすく、すっと入ってきました。自分を変えらることを教えていただきました。『三つの大切なこと』を頭に入れて実践させて頂きたいと思えます」とあいさつをしました。

引き続き辻秀志さん(小田原教会)が天地書附奉体を先唱し、閉会ご祈念を行いました。講師の金光英子先生は、参加者に「ヨコレートをお持ちくださって、参加者は出口で頂きました。これは三代金光様の奥様がよくキスチョコをくださったことに因んでのことださうです。講師の心づくしをありがたく頂きました。

そして、全員境内に移動し、教主金光様のお退けをお見送りし、会堂正面の階段でまぶしい夕日を浴びながら記念写真を撮りました。

翌日は各自ご本部の生神金光大神大祭に参拝した後、3コースに分かれて「ご霊



地ツアー」を行いました。第1コースは、境内を見てご本部広前の変遷を学び、図書館展示室を職員の児山真生先生の案内で見学し、さらに難波教会近藤藤守先生の別邸「苦楽庵」の庭園を滝口道江先生の案内で見学しました。第2コースは、金光英子先生の案内で境内を回りました。第3コースは霊地の輔教・中務貴美子さん、中務志寸子さんの案内で絵師迫墓地、小野家墓地、金光教学院、金光教学研究所を見学しました。学院ではお広前に参拝し、次長の秦浩治先生のお話を伺いました。研究所では

所長の大林浩治先生と部長の白石淳平先生から、教祖様の資料についてお話を聞き、建物を見学しました。それぞれのコースで、普段は見られないものを見て、聞けない話を聞いて、ご霊地の魅力を堪能しました。

(報告  
山田信二)



## みんなのつどい

### 吾妻山(あづまやま) 公園散策 報告

9月11日(日)に、みんなのつどい「吾妻山公園散策」が行われました。良いお天気の中、7名と1匹の参加でした。10時に東海道本線の二宮駅の改札口前に集合し、二宮駅北口から吾妻山公園の役場口へ。300段の階段を上り、気持ち良いというより、少し肌寒い風にさらされながら山頂を目指して登っていきました。

階段を登り終え、第二展望台から少し進むと、ツツジ園がありました。以前、来た時はツツジの花がきれいに咲いていましたが、今回は花の季節の谷間の時期にあたってしまい、花が咲いていなかったのは選択を間違えたなと思いました。

山頂までもう少しというところで、全長約100メートルのローラーすべり台が見えてきました。子供に交じって某大人もちやっかり動画を撮りながら滑っていたようです。

坂道を登って山頂に着くと、一面の芝生に青い空で、言葉を失うほどの絶景が広がっていました。正面に富士山がどっしりと座り、左に目を移すと、西湘?湘南?の海が、小田原の市街地から伊豆半島へ伸び、ぼんやりと島影も見えます。7名と1匹は思い々に写真を撮ったり、実物を眺めた

り、ファインダーに納まりきれない風景を堪能していました。

展望台のベンチでは「わしは、毎日登っているんじや」と一人の男性が、ご自身が撮影した写真を見せて下さいました。そして、景色をバックに集合写真を撮影し、屋根のある所に移動して昼食をいただき、解散しました。

帰り道は、登ってきた道とは違う登山口から線路沿いの道に出て、テクテク歩いて二宮駅に着き、東海道本線に乗って、帰路に着きました。

季節によってはツツジ以外にも菜の花など色々な花が咲き乱れます。ぜひ一度登ってみてはいかがでしょう。

(報告 福田俊介)



## 輔教懇談会 報告

9月3日(土) 13時半、県民センターの一室で、コロナ禍のため、2年間休会していた輔教懇談会を開催した。出席者は7名と少なかつたが、活発に意見交換が出来た。

① コロナ禍にあつて、どう過ごしたか、教会や信者さんの様子を含めて、自己紹介をして頂いた。各教会では、マスクや手指消毒はもちろん、お祭を2回に分けたり、ユーチューブで配信したり、拝詞を大きな声で唱えない、お直会やお茶はしない、などなど。教会まで来て、お届けの用紙をポストに入れて帰った信者さんがいたとか。参拝者は減っていて、電話でお届したり、人が来ない時間帯にお参りしたり、教会も信者もそれぞれに工夫をこらしてきたようだ。

② 近頃奇跡的なおかげ話を聴くことが少なくなつたが、おかげというのは厳然としてあるはず、体験談を話して頂いた。腹水が溜まるような進行した癌に罹り、人工肛門を付けることになると言われたが、そこからおかげ頂いて人工肛門はつげずに20年、今も元気にさせて頂いている。若い頃旅行の途中、電車内で幼児が「おなか痛い」と泣いている。かなり逡巡したが、思い切って持っていた御神米を差し上げた、口に入れると同時に幼児は「治つた!」。差し上げたこちらが

びつくりした程で、有難く思った。その他、お練合せの実例は、いろいろ出た。広い空港で思いがけなくバツタリと出会えたり、信じられないような都合お練合せというものは、出席者のほとんど全員が経験し、実感しているようであつた。

③ 輔教としてどのような御用をさせて頂いているか。典樂の御用、教会誌の発行、大工仕事や電気工事仕事など修理一般、掃除、草取りなどの御用が多かつた。輔教でなければならぬという御用ではなく、信者さんなら誰でもして下さることであるが、自覚的積極的に取り組んでおられるような気がした。

最後に、顧問の横山光雄先生(丸子教会長)から、感話を頂いた。「皆さんの神様に向かう姿勢や信心への取り組みを見せて頂いた。こういう機会を積み重ねることで、横の繋がりが仲間作りが出来る。回を重ねることで、輔教であることの楽しさや喜びを共有できることになるのだから、これから



も積極的に参加して頂きたい。また時に輔教の願いとするとともに、心について考え確認し、言わば原点に戻る、心の作業が必要かと思う。『輔教の皆さんへ』と題した、先生手作りの冊子を頂いて、16時に散会した。

(報告 大塚東子)



## 連合会長選挙が行われました

本年末に連合会長の任期満了を迎えることから、10月14日(金)、横浜西教会を投票の会場として、連合会長選挙が行われました。立会人3名の他、3名が出席しました。

定刻の14時に投票が締め切られ、開票の結果、山田信二先生(横浜西教会)が、今期に引き続き会長に選任されました。

山田先生は選挙結果を踏まえて次期会長への就任を決められ、現在、来期に向けて構想を膨らませています。

来年から三年間、また新たな連合会の歩みが進められます。新たな期も、連合会活動のうえにご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 二

横浜市泉区下飯田町926・23

〒245-0017 金光教横浜西教会内